

5. 学際的・国際的な学びを育てる教育環境

1) 学部学生の国際化への支援

平成 30 年度は、看護学部 1 回生 1 名がガジャマダ大学を受け入れ大学として、【災害大国インドネシアに「災害への備え」をともに学び、広めに行こう～「南海トラフ対策への備え」から学ぶ知識を活かす～】というテーマで多様性人材コースへのエントリー準備を行ったが、書類準備が期限内に間に合わず、今回エントリーできなかった。令和元年度は、準備期間を十分に考慮しながら、エントリーシート作成を「看護セミナーⅡ」の演習課題として提案し、より多くの学生にエントリーを促進していきたいと考える。

(1) ガジャマダ大学およびインドネシア大学への短期研修派遣プログラム

平成 30 年度は学部学生 5 名（1 回生 3 名・2 回生 2 名）と教員 2 名が参加しガジャマダ大学およびインドネシア大学への短期研究派遣プログラムを実施した。ガジャマダ大学医学部看護学科への短期研修は平成 28 年度より実施し、今回 3 回目であるが、インドネシア大学看護学部は平成 30 年度に新たな協定を結んだ大学であるため、今回初めて短期研修を企画し、10 日間でガジャマダ大学とインドネシア大学両校に派遣するプログラムとした。

研修目的は、学生が短期派遣研修でのインドネシア大学・ガジャマダ大学学生との交流を通して、異文化および自文化の理解、自身の立ち位置を把握する力、異文化環境での耐性などを高めていくことであり、①インドネシアの医療保健の現状を学ぶ、②インドネシアの生活・文化を学ぶ、③インドネシア大学・ガジャマダ大学医学部看護学科との学生間交流を促進することを目指した。

表 1. インドネシア大学・ガジャマダ大学研修スケジュール

月日	内容	宿泊
3 月 20 日 (水曜)	07:35-08:50 高知-羽田(ANA562) 10:20-16:15 羽田-ジャカルタ(ANA855) 18:30-19:40 ジャカルタ-ジョグジャカルタ (GA216)	3 月 20 日～5 泊 Gadjah Mada University 医学部の Deen's House
3 月 21 日 (木曜)	ガジャマダ大学医学部看護学科での研修 ・ Puskesmas (保健所+地域診療所) 見学 ・ Posyandu (保健ポスト:保健所の下位システムで乳幼児健診、高齢者健診を地域で行っている) 見学	
3 月 22 日 (金曜)	ガジャマダ大学医学部看護学科での研修 ・ ガジャマダ大学アカデミックホスピタル見学 病院の概要説明後、ICU 等を中心に見学 ・ International Collabotation meeting	
3 月 23 日 (土曜)	・ Social Activities ボルボドゥル寺院遺跡 (世界遺産) 見学	

3月24日 (日曜)	<ul style="list-style-type: none"> • Social Activities ムラピ火山※ジープツアー <p>※インドネシアでも最も活動的な火山で、ほぼ1年中噴煙を上げ、1548年以來68回噴火。2010年10,11月の噴火で死者322人、避難者13万人。</p>	
3月25日 (月曜)	<p>ガジャマダ大学医学部看護学科での研修</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「Public Health Nurse in Indonesia」講義 14:10-15:30 ジョグジャカルタージャカルタ(GA209) 	
3月26日 (火曜)	<p>インドネシア大学看護学部での研修</p> <ul style="list-style-type: none"> • Welcoming session インドネシア大学看護学部の紹介、プログラムオリエンテーション。学生がPPを活用して高知県立大学看護学部紹介を実施。 • Fuculty and Campus tour • Public lecture by 川上理子 日本の介護保険システムの背景・現状・課題について紹介 • learning bahasa Indonesia(basic) 簡単なインドネシア語:挨拶、数の数え方等を習う 	3月25日~4泊 教員:学生寮 隣の大学のホテル 学生:学生寮
3月27日 (水曜)	<p>インドネシア大学看護学部での研修</p> <ul style="list-style-type: none"> • Puskesmas (保健所+地域診療所) 見学 インドネシアで唯一、ナースセンター併設している。 • Meeting with undergraduate students 学生同士の交流会、学生がPPを活用して高知県立大学看護学部紹介を実施。Meeting後は、両校の学生だけで学内探索や学内バス(300名以上あり18学部・43博士課程をもつマンモス国立大学)利用し、学内の学生寮に戻る 	
3月28日 (木曜)	<p>インドネシア大学看護学部での研修</p> <ul style="list-style-type: none"> • インドネシア大学付属病院見学 医学部・看護学部棟から渡り廊下で行くことができる。 537床中25床稼働中のpre-openのJICAが建てた病院。 • Farewell Dinner 	
3月29日 (金曜)	<ul style="list-style-type: none"> • Social Activities <p>①Taman Mini Indonesia Indah (インドネシアミニチュアパーク:50カ所以上のインドネシア各地域の建築物、文化・歴史等を一同に見ることのできる公園) 見学</p> <p>②ジャカルタ市街のショッピングモール見学 21:45-06:50 ジャカルター羽田(ANA856)</p>	機中泊
3月30日 (土曜)	<p>06:50 羽田着 11:50-13:00 羽田-高知(ANA563)</p>	

研修後の評価について、研修中、全員が心身の体調不良を起こすこともなくインドネシアの生活習慣に合わせて生活することができていた。

研修目的①については、事前学習および2つの地域での Puskesmas 見学研修・病院見学研修と、見学時に各保健所長、病院看護部長からのインドネシア医療システムの紹介、各施設の機能・役割・実践内容の説明を受け、インドネシアの医療保健の現状について理解を深めることができたと考える。

研修目的②は、ガジャマダ大学の施設宿泊（食事なし）時、ほぼ毎日近くのスーパーマーケットまで徒歩で出かけ日用品や食料を調達していたこと、インドネシア大学で初歩インドネシア語を学び挨拶や買い物時のやりとりをインドネシアの方とできるようになったこと、フィールドワークで歴史的な施設やインドネシアを学ぶ施設に出かけ学んだことから、インドネシアの生活や文化についても理解を深めることができたと考える。

研修目的③では、2つの大学の学生と本学学生はインスタグラムアドレス、ラインアドレスを交換し、情報交換や交流を深めていた。特にインドネシア大学では学生寮に滞在し、毎日学生寮にいる学生と夜遅くまでいろいろな話をしながら交流を深めることができていた。研修参加学生は、今後インドネシアの大学生が高知に研修に来るときは、自分たちがおもてなしをしたいと表明しており、交流促進につながったと思わせる。

今後の国際交流についてであるが、ガジャマダ大学、インドネシア大学とも、平成31年度秋頃に本学への短期研修学生派遣を計画したいと希望されている。また、ガジャマダ大学看護学科とは、本学看護学部渡邊聡子を中心としたグループと共同研究を開始する予定である。

平成30年度は2つの大学への研修を実施したが、移動の煩雑さや研修内容が重複する傾向もあり、令和元年度以降は、1つの大学への研修とすることも検討していきたい。

また、令和2年度からは、インドネシアへの短期研修が「看護学部異文化理解海外フィールドワーク（仮）」として単位化できるよう取り組んでいく予定である。

2) 大学院生への支援

平成30年度は、エルムズカレッジへの大学院生短期研修派遣プログラムの実施、および、学際的・国際的な講義の実施を行った。

(1) エルムズ大学への大学院生短期研修派遣プログラム

本学（協定締結当時、高知女子大学）と Elms College とは 過去 20 年以上に渡り、学部生の短期・長期の交換留学を行い、交流を通じて学生間だけではなく、教職員間でも良い協力関係を形成してきた。その上で、今年度は、初めて大学院生を対象とし、保健医療福祉専門職としての技能向上を目指した、短期研修プログラムを実施することとなった。今回の研修には、看護学研究科から4名の院生と教員1名、人間生活学研究科から1名の院生が参加し、両研究科の引率教員とともに、8月に1週間の研修を行った。

研修のテーマは、アメリカの医療・福祉現場の「多様性」(Diversity)と「職種間連携」(Inter-professional Work)を理解することである。そのために、午前中は英語の授業があり、自分の意思を英語で表現する方法や、移民社会アメリカの歴史や社会、価値観等を学んだ。また、午後は、Elms College の看護学・社会福祉学の各学科の教員のご支援により、看護師やソーシャルワーカーが働く、地域の医療現場や福祉施設への訪問を行った(スケジュール表1参照)。訪問先は、急性期病院の救急救命室、地域のシニアセンター、女性受刑者の更生施設、ヒスパニック系住民のための主にメンタルヘルスに係る家族支援センターや児童・若年者の入所施設、DVや性暴力(虐待)被害者のためのシェルター等だった。各々の場所で、看護師やソーシャルワーカー等の専門職が、各職種の役割や患者・利用者の抱える課題等を説明し、本学の院生の率直な質問にもひとつひとつ丁寧に対応してくれた。さらにElms Collegeの学内では、大学が運営する、貧困地域を巡回して食事を提供し、医療・福祉ニーズに対応する巡回車(Care Van)や、看護学研究科の授業や薬物の授業への参加、看護実習の体験、看護研究のポスターセッション等の経験をすることもできた。

表1 エルムズカレッジ大学院短期研修スケジュール

8/13 (月)	9:00-11:15 (Joyce先生,Elleさん) ①Introductionを英語で準備しよう! ・Joyce先生,Elleさんの自己紹介 ・現在地の説明: We are in Chicopee, Massachusetts. Capital of MA : Boston ②Impressions of the United States 1. What are the first things you think of when you hear the words "US"? 2. What are things you want to learn about the United States? ③Baystate Medical Center紹介	①これから施設では必ず尋ねられるので以下を繰り返し練習しましょう!として提示された。 My name is <u>Kyoko Takatani</u> . You can call me <u>Kyo</u> . I am a <u>nursing lecturer</u> . I worked as a nurse at a hospital in <u>Osaka Japan</u> . ②2グループに分かれて設問に答え発表していく。 1.については10個を取り上げること。 2.個人で考え書き留めること。 話し合いや書き留めている際、スペルや文法チェックをして下さる。 ③資料を説明して頂き準備性を高めた。	* Baystate Medical Center Panel Discussion (Hospital Emergency Room Models: Addressing Complex Care Needs)
8/14 (火)	9:00-10:45 (Joyce先生,Elleさん, Briさん, Amandaさん) ①Baystateのpointを確認 ②Activity ! Selfie Scavenger Hunt:1-7	①Joyce先生よりBaystateで何った大事なこと(EDの使命や役割, Dr/Ns/SW/カウンセラー-intra professional collaboration等)を英語で整理して下さい。 ②Elleさん, Briさん, Amandaさんのグループに分かれて、1-7の場所を探し当てて自分たちも映った写真を撮ってくるというミッションを行い、英語に楽しく慣れるレッスンとなった。	*Chicopee Senior Center *Western Massachusetts Regional Women's Correctional Center
8/15 (水)	9:00-10:30am (Joyce先生,Elleさん) ①Chicopee Senior CenterとWCCそれぞれで学んだことを、施設ごと2グループに分かれて板書し、学びを共有する。 ②宿題を受け取る。(資料参照: United Statesに関して書かれた文を読んで頂くこと)	①学んだことを5つ取り上げて発表をする。 英語で板書する際spellやgrammarチェックと共に伝えたい内容に近い英語が書けるようサポートして下さい。発表内容に対して英語で質問されるなど英語を話すトレーニングとなった。 ②Cultureとvalueの説明。	*Gandara Center:Culturally Sensitive Care ◆Advanced Health and Physical Assessment Lab
8/16 (木)	9:00-11:15am(Joyce先生, Elleさん, Amandaさん) ①Gandara Centerのpointを確認 ②Iceberg Model of Cultureの説明/資料2枚参照 ③宿題を受け取る。	①Joyce先生よりGandara Centerで何った大事なこと(プエルトリコやドミカ系移民の方々のニーズ, 虐待やトラウマへの居住プログラムやDCFの役割等)を英語で整理して下さい。 ②Joyce先生より説明を聞いた後、2グループに分かれElleさんとAmandaさんに8つ質問を行い、書き留めながら文化や価値の違いを学んだ。 ③読んで問いに各自で答えて頂くこと。	◆Panel Discussion: The Opioid Challenge in Healthcare ◆Elms Car Van (mobile clinic)
8/17 (月)	9:00-10:15am (Joyce先生, Elleさん, Amandaさん) ①American Historyを学ぶ ②Writing Assignment	①Joyce先生よりアメリカの多様性を理解するために必要な歴史をレクチャーいただいた。 ②1. Write 5 sentences about how this exchange has helped you as a NS/SW. 2. Write 5 sentences about how this exchange has helped you think more globally.	*YWCA of Massachusetts, a safe place for women and girls in crisis ◆Nursing Research Poster Session and Tea

【研修の評価 学生の学びと今後の課題】

学生から提出された報告書に、研修全体の感想として書かれていた自由記載について、『研修からの学び』と『研修における課題』という2つの視点から、内容を検討した。

その結果、『研修からの学び』として、「健康課題の背景にある文化の違い」「自分の専門性への振り返り」「専門職としての共通性」「キャリアへの応用」「文化多様性に対応する専門職としての態度」「生活体験を通じた異文化への興味」「体験を通じた価値観の獲得」といった内容が含まれていました。救急医療を担う場から更正施設（刑務所）など地域における多様な場で働く専門職に、その場における自らの役割について説明を受け、ディスカッションできたことで、健康課題に関する文化の違いを肌で感じとり、その上で自らのキャリアを振り返って、専門職としての学びを得ていたことがうかがわれた。同時に、学生は、エルムズカレッジの寮生活などの生活体験、また、エルムズカレッジの学生などとの交流、および、研修に参加した学生同士の交流からも学びを得ていた。

『研修の課題』として、3点、「コミュニケーション力(英語の能力)」「プログラムの時間のゆとり」「事前学習」という3つの課題が明らかになった。

大学院の研修と言うことで、特に午後に予定されていた施設訪問では、それぞれの専門性に根ざした内容に踏み込んだディスカッションが期待された。内容に踏み込んだディスカッションを行うためには、特に研修初期の時期に通訳が必要で、今回は急遽引率教員が通訳を行った。そのため、当初予定されていた訪問時間では時間が不足し、結果、訪問時間の延長など時間的な負担が増したと考えられ、「プログラムの時間のゆとり」という課題については、この点が大きく影響していると考えられる。

同時に、学生は、通訳を受けながらの施設訪問において、もっと聞きたい、もっと知りたい、自由にコミュニケーションできれば…という気持ちを強めたようで、自らの「コミュニケーション力(英語の能力)」を課題としてあげていた。

事前学習について、学生は、プログラムが決定してからの短期間で、担当した施設について、かなりふみこんで、その関連情報まで事前学習してくれていた。しかし、その情報を共有し、日本語でディスカッションする時間は、午前中、英語のクラスが始まる前の短時間しかとれなかったこともひとつ課題としてあげられる。短期研修の効果を高めるためには、限られた時間の中で実施できる有効な事前学習の内容について考えていく必要が示唆される。

(2) 様々な講師による学際的・国際的な講義

学際性・国際性強化の取り組みとして、2名のゲストスピーカーに講義を、6名の講師に特別講義をお願いした。開催日時、講師、テーマ、参加者数など詳細を以下の表に示す。

表 ゲストスピーカーの招聘

日程	講師	テーマ	参加者数	科目名
6月1日 2限目	Rajib Shaw 教授 (慶応義塾大学)	"Expectations for nursing from global disaster reduction management strategies"	受講者 3名 +自由参加	インディペンデントスタディ
6月26日 2-3限	Pamela Minarik 教授 (米国 Samuel Merritt Univ.)	「看護コンサルテーションの理論と実践」	受講者 12名 +自由参加	コンサルテーション論
6月27日 2-3限	Pamela Minarik 教授 (米国 Samuel Merritt Univ.)	「What is an Abstract?」	受講者 3名 +自由参加	インディペンデントスタディ

表 特別講義

日時	講師	テーマ	参加者数	備考
11月21日 2限	所和香子 (NP)	Nurse Practitioner in Canada	30名(博士前期課程7名・教員23名)	特別講義
12月5日 2限	和田耕治 (国際医療福祉大学医学部公衆衛生学・医学研究科教授)	東京オリンピック・パラリンピックに向けた公衆衛生上の課題と看護に期待する役割	19名(博士前期課程5名・DNGL3名・教員11名)	特別講義
1月22日 14時～16時	高木廣文先生 (天使大学副学長・特任教授)	研究における質的研究と量的研究の接点について	17名(博士前期課程8名・教員9名)	特別講義
1月29日 4限	伊藤拓次郎先生 (インストラクショナルデザイナー、アイシーネット株式会社シニアコンサルタント)	コミュニティをデザインする	7名 (博士前期課程1名・NGL2名・教員4名)	特別講義
2月13日 2限	Odeya Cohen 先生 (イスラエル・ベングリオン大学 国際保健医療学コーディネーター看護学部、健康科学部救急医療修士課程長、PREPARED 緊急対応研究センター)	イスラエルのコミュニティ・レジリエンスと災害看護	10名(博士前期課程3名・DNGL3名・教員4名)	特別講義
2月28日	波平恵美子先生 (お茶の水大学名誉教授)	Q&A セミナー	10名(博士前期課程5名・DNGL3名・教員2名)	特別講義
5月18日 3限	波平恵美子先生 (お茶の水大学名誉教授)	健康分野・医・看護分野研究におけるエスノグラフィの課題と可能性	73名(博士前期課程13名・DNGL3名・教員46名・事務局11名)	特別講義

